

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

粒々の不思議～ゴマ～／さいたま市立常盤保育園（埼玉県）

「なんだろう？」「どうして？」という子どもたちの不思議や疑問をどのように受け止め、大切にしていますか？子どもたちのつぶやきを見逃さず、保育者のみならず園内の大人が大切に受け止めたことで、子どもたちが、“粒々”からゴマへ興味を深め、栽培活動へと繋がった事例をご紹介します。育てる過程での発見や疑問などを友達や保育者と共有していく姿や、保育者が子どもたちの取り組みをワクワクと楽しみにしていることが伝わってきます。



● ゴマの栽培／5歳児

園のカレーには、隠し味でイチゴジャムが入っていることを知ったAちゃん、「あっ！これイチゴの粒々だ！」と、カレーの中に粒々を見つけた。指先にカレーの中から見付けた小さな粒を付け、興奮気味にみんなに見せた。そして、給食の先生に確かめに行き、やはりイチゴの粒々であることが分かった。この時から、子どもたちは、粒々探しに夢中になった。

✦ 場面1：ゴマは何からできているか？／4月～7月

- カレーライスの盛り上がり以降、給食の献立や食材に興味をもつようになった子どもたちが、次に見付けたものはゴマだった。粒々の形や食感が気になったようで、「魚の南蛮漬け」を食べながら、タレの中に粒々を見付けた子どもが、「ゴマ入ってる」「ゴマって何？」とつぶやくと、次々と考えが出てきた。

「何からできているのかな？」

「種じゃない？」

「何かの実じゃないの？」

「小さすぎるよ」

「木になるの？」

「草じゃない？」

- そして、子どもたちが特に気になったのは、『ゴマは、種なのか？実なのか？』ということだった。“ゴマ調査隊”が結成され、ゴマについて調べることになった。子どもたちは、ゴマについて、知っていそうな保育士・庁務員・調理員などと顔を合わせると、「ゴマは種ですか？実ですか？」と、質問した。
- その後、子どもたちは調査したことを、「ゴマ調査ノート」に記録していた。結局、ゴマは「種」なのか「実」なのか、はっきりとした答えは見付からない。しかし、子どもたちに質問された大人たちは、その真剣さに、「何か答えなくては…」と、子どもたちの思いを受け止め、ゴマにまつわる話を伝えた。

大人たちの話：「タネだと思う」「実、じゃないの？」「ゴマができているところは、見たことない」「どんな木なのかな？それとも草かな？」「おいしいよね」「油が取れるんだよ。ゴマ油！」「白ゴマ、黒ゴマ、金のゴマがあるよ…」など

✦ 場面2：ゴマを育ててみよう！

- 職員の話の中に、「ゴマの種を見たことがある」という話を聞いて、子どもたちは、自分たちで栽培したい気持ちになった。初めて見る「ゴマの種」。それはとても小さく、風で飛んでいってしまいそうで、そっと掌に載せている子どもたちのドキドキが伝わってくる。

「たねもゴマの形をしていてびっくり！」

- 種まきをしたゴマは思ったよりも早くに発芽し、順調に生長した。“ゴマ調査隊”となった子どもたちが、その様子を観察・記録しながら、他クラスの子どもたちや保育者、職員に報告をした。

「芽が出たよ！」

「小さくてかわいい！」

「大きくなあれ」

「土日の度に大きくなってる」

「月曜の朝、いつもびっくり」

「葉の枚数を数えたり、背の高さを測ったりしたよ」

「葉っぱの大きさが、どんどん変わるね！」

「大発見！朝は開いていた葉っぱが夜になると、くっ付いているんだよ！」

「帰る時、見なくちゃ！」



❖ 場面3：何が違うのかな？

- ゴマが生長してくると、2つのプランターで違いが出てきた。1つは、葉も大きくグングン伸び、茎も太くなり、もう片方は全体的に小さくなってしまった。

「同じ日に、種まきしたのにね」

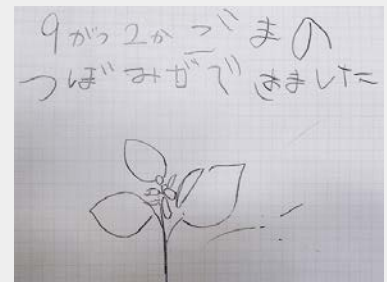
「こっちは小さいよ」

「どうして、違うのかな？」

「なんでだろう？」

「こっちは、葉っぱも大きいね」

「大きい方は蕾ができそうだよ」



- なぜ差がでてしまったのか、子どもたちなりの考えを聞いてみると、子どもたちは、みんな真剣な表情で考えていた。

「お水が少なかったからじゃない？」

「おひさまの光が違っていたのかも」

「大きい葉っぱで陰になっちゃったのかな」

「プランターの大きさが違うよ！」

「じゃあ、根っこが違うのかも！」

- 担任が思っていたより、いろいろなことを考えていた子どもたちに驚きを感じた。偶然にもプランターに、大きさの違うゴマが育ったことで、より多くの発見が生まれた。根っこに違いがあるかもしれないという考えが出たことで、実際はどうなのか見てみると、一部の抜いてもよさそうな株を選んで丁寧に掘り出し観察することになった。

- 実際に比べてみることで、背の高さ・茎の太さ・葉の大きさの違いが分かり易くなった。目で見て手で触れて、クラス全員で違いを感じる事ができた。また、根っこにはあまり差がないことに気付いた子どもがいた。

「根っこは、同じ長さだね」

「葉っぱって、フワフワしてるね」

「チクチクするところもあるよ！」

「なんか、ゴマの匂いするよ！」



「嗅いでみて！」

- 大きさの違いのような目に見えることだけでなく、土の中のことを想像したり、匂いや感触を感じたりといった新たな発見もあった。子どもたちは、発見するたびに、感じたことを友達や保育者に伝え、「同じ思いを共有したい」という思いを感じることができた。ますます期待感は膨らみ、水やりもとても意欲的になった。
- ゴマには蕾が付き、そして花が咲いた。5歳児組の保育室の前に置いてあるゴマのプランターは、送迎の保護者の方にも目に入りやすく、「これ、ゴマですか？」「伸びてきましたね」「楽しみだね」と、親子で語り合いながら観察する姿も多く見られるようになった。ゴマは種なのか？実なのか？答えが分かるのももう少し…。

✦ 振り返って

- 「ゴマの栽培」の実践は、体験が深まるようにすることや、実感することを大切に進めてきた。その間、育ててきた他の植物（ヒマワリ）がうまく咲かなかったという経験もし、生長の過程だけでなく、水やりや土の中にも注目する子どもが出てきた。
- 「これは何？」「どうして？」という気付きを大切にし、「実際にやってみること」を通し、いくつかの失敗も経験した。「どうしてだろう？」「どうすればいいんだろう？」と考えを出し合い、確かめることを楽しんでいる子どもたちの姿から、子どもたちの「考える力」の芽吹きを大切に育んでいきたい。
- いつでも子どもたちの中にある、「科学する心」「成長の種」が、今後どのように展開していくのか、子どもたちのどんな発見に出会えるのかを楽しみに、寄り添いながら援助していきたい。



無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」